



9/8 (金) 今日のデザートは「桑の実ソルベ」

9月8日(桑の日)に、地元の農産物や特産品に関心を持ってもらうことと、食育につなげることを目的に、桑の実を使用した『桑の実ソルベ(シャーベット)』が市内小中学校と幼稚園2園の給食に登場しました。いつもと違うデザートに子どもたちは興味津々。ごはんやおかずを早く食べ終え、『桑の実ソルベ』をひとくち口にした瞬間「あまずっぱくておいしい」「本物の桑の実よりおいしい」と子どもたちは最後まで笑顔でおいしく味わいました。



9/9 (土) 世界最大人数で沖縄そば作り

たくさんの参加者がギネス記録にチャレンジしようと、仲西中学校の体育館で沖縄そばの麺作りに挑戦しました。ギネス記録の認定条件は、1人で沖縄そばの麺を小麦粉から作ることです。生地をこねて、薄く延ばし、包丁で切って麺にしていく作業を一齐に行いました。麺完成後に作業人数の集計を行い、324人でギネス記録の達成が発表されると会場は歓喜の声で溢れました。その後、太い麺や細い麺などそれぞれの個性が光る自作の沖縄そばをみんなで試食。参加した宮本朋季くんは「ちょっと硬いけど、美味しい」と口いっぱい沖縄そばを頬張っていました。

※この記録はギネス審査機関へ申請し、認定された場合に、正式にギネス記録として認定されます。



9/1 (金) 宜野湾市と災害時に助け合いを

地震や津波などの災害が起きた時、迅速な対応が求められます。単独では市民の生命・財産の保護等活動に十分な対応ができないことも想定され、自治体間で協力し合って防災・減災に努めることを目的に、宜野湾市と災害時における相互応援に関する協定を締結しました。この締結により、本市と連携協力する自治体は西原町と那覇市と合わせて3自治体となりました。松本市長と佐喜眞淳宜野湾市長は「災害はいつ起こるかわからない。備えあれば憂いなしです。よろしくお願いします」と力強く握手を交わしました。



9/10 (日) 世界にひとつだけのシルクスカーフ

浦添市養蚕絹織物施設サン・シルクでシルクスカーフ草木染体験が行われました。この日用意された染料は、フクギ(黄色)、アカネ(赤色)、タマネギ(山吹色)、桑葉(緑色)の4種類。参加者は、思い描いた模様になるように輪ゴムや割りばしで押え、模様出しの準備から染めて仕上げまでの工程を体験しました。はじめは真っ白だったシルクスカーフが色鮮やかに仕上がると、参加者らは「きれいに染まって良かった」と世界にひとつだけのシルクスカーフの完成を喜びました。



まつかわ ひでお
松川 秀雄 さん



とうま 當間 ツル さん



みやら たけ
宮良 武 さん



しんざと や え
新里 八重 さん



しまぶくろ
島袋 ハツ さん



8/27 (日) 大観衆の中で東西が熱戦！歴史誇る「西原大綱引き」

約300年以上続く地域の伝統行事「西原大綱引き」が、浦添市西原で開催されました。勇壮な綱マチと地面にたたきつけながら綱を引く(たたき綱)スタイルが西原大綱引きの特徴で、西原一区と二区に分かれ、子どもの部、大人の部で綱を引きました。上下に揺さぶりながら綱を引き合う両者の姿に観客からは声援が送られました。熱戦の末、今年勝利を収めたのは子どもの部・大人の部ともに西原一区でしたが、戦いのあとは互いに笑顔で健闘を称え合いました。



8/24 (木) 友好都市と異文化交流から学ぶ

8/7(月)～11(金)の日程で市内の小中学生が浦添市の友好都市である中国の泉州市へ出向き、国際的視野を広め、豊かな人間形成を目的にした交流事業が行われました。現地に着くと子どもたちは泉州市の小学校で空手やエイサーを披露した後、寺や博物館、少林寺などを見学し交流を深めました。帰国後、市役所で報告会が行われ、沖縄出発前に勉強した中国語を使って現地でコミュニケーションが取れたことや、沖縄では見られない町の景色がとても新鮮だったことなど楽しそうに報告しました。